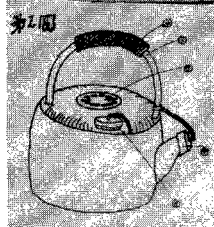
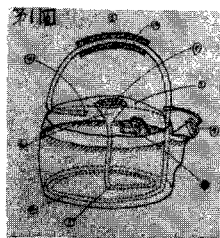


安全湯めかし(やかん)の図(第3報)
長崎大教育 重永幸男



目的：前回報告(日本家政学会第26回総会研究発表要旨集1、2頁参照)に同じ。

構造：本報告は前回(第1報および第2報)報告した“安全やかん”とは原理的に全く異なるもので、第1図は本器の斜視図、第2図はその外観図である。

第1図および第2図に示す通り、上部中高(なかたか)の容器①の内部に曲げ管の一端②を取り入れ、この管を逆U字(∩)管③とし本器の最上部構造となし、さらに環状管④、L字管⑤を構成するよう曲げ、その他端⑥を容器外に開口させ、その開口部にさし、孔板⑦を取りつけ保護物の働きをさせる。⑧は注水口の密栓、⑨は湯等の取出し口の密栓、さらに逆U字管の一部③は取手としても使うため断熱材⑩を取りつける。なお、逆U字管③の部分(取手の部分)を容器外高所に露出させるのは、容器内の液体が沸騰時、蒸気とともに、たとえわづかでも熱湯が曲げ管の一端②から入り込んだ場合、逆U字管の最高部(取手部分の最高部)に達するまでに熱湯のみは

両方下方へ降下し、容器内にもどり、容器外に出ないので安全性がきわめて高い。本器は中密閉容器であるにもかかわらず、如何なる傾斜にも内容液を漏出させないので安全で、その効果は前回報告(日本家政学会第27回総会研究発表要旨集134頁参照)に同じ。